



千葉県PRマスコット
キャラクター チーバくん
千葉県許諾 第A3-15号



ちばで見よ 電車&飛行機

Trains and planes seen in Chiba

第12回



- 小湊鐵道
- キハ200形
- トロッコ列車

キハ200形
小湊鐵道線(光風台駅~馬立駅間)

1961年より 導入された 小湊鐵道の主力車両



キハ200形+キハ40形 小湊鐵道線(上総牛久駅~上総川間駅間)

キハ200形

小湊鐵道は、千葉縣市原市の五井駅から大多喜町の上総中野駅までを結ぶ路線です。39.1kmの路線内に18の駅があります。

首都圏には珍しく無人駅が多く、駅舎や路線の周辺は自然豊かで昔ながらの風景を残しています。

この路線で現在活躍する車両の中心となるのが、このキハ200形。路線のノスタルジックな風景に溶け込むようなクラシックなデザインが魅力の車両です。

キハ200形が製造されたのは1961年~1977年です。老朽化したそれまでの車両の置き換えのため全部で14両が製造されました。首都圏では珍しいディーゼル気動車で、国鉄キハ20形をベースに製造された車両ですが、デザインや塗装(ファイアーオレンジとモーンアイボリー)は京成電鉄の赤電3100形電車の影響を受けています。

長年に渡り製造されたことから時期により仕様が異なり、側扉についてはキハ206までと207以降では客用ドアの構造が異なっています。また側窓についてはキハ210までが通常のアルミサッシ、キハ211以降がユニットサッシとなっています。このちょっとした違いを見つけるのも鉄道ファンにとって楽しみかもしれません。最高速度は95km/h。



キハ200形 小湊鐵道線(上総牛久駅~上総川間駅間)

キハ40形

小湊鐵道では、JRで活躍し引退したキハ40系が導入され、小湊鐵道仕様への改造工事を経て運転が開始されました。現在は既存のキハ200形との併用で運行が行われていますが、今後は既存のキハ200形を徐々にキハ40形に置き換えることが計画されています。

キハ40系は、国鉄で1977年から1982年にかけて製造された車両です。国鉄時代に900両近くが製造されたディーゼルカーで、北海道から九州まで全国各地で投入され、まさにローカル線の顔ともいえる車両です。そのため鉄道が登場する多くの映画にも出演しています。

しかし老朽化と新型車両の導入で徐々に数を減らし、JR東日本では定期普通列車から引退しましたが、小湊鐵道ではまだまだ活躍しそうです。



キハ40形 小湊鐵道線(五井駅~上総村上駅間)



キハ40形
小湊鐵道線(里見駅)

ちばで見 電車&飛行機



開放感抜群の展望車と現代によみがえった小湊鐵道DB4形機関車

トロッコ列車
小湊鐵道線
(上総久保駅～高滝駅間)

トロッコ列車

トロッコ列車とは、車体の上半分が開放された、観光列車の通称です。

小湊鐵道で昔に活躍していた大正12年製のC型コッペル蒸気機関車を現代版でリアルに再現。世界的な第3次ディーゼルエンジン排出ガス規制をクリアしたボルボ製クリーンディーゼルエンジンを搭載し、見た目はクラシックですが実はかなり新しくして優秀な車両です。

当時の雰囲気再現するため、倉庫で眠っていた大正時代の汽笛を磨きそのまま搭載。懐かしい音色を里山にひびかせながら走行します。煙突から出る煙は実は発煙装置によるものです。またドレンコックからもエアの噴出が可能です。

客車の天井は、その大部分がガラス張り。車内とは思えない明るさも自慢です。さらに中間2両の展望車は、窓も取り去ったオープン状態。まさに里山の風を肌で感じることができます。見どころでは、速度を落として走行してくれるため、じっくり風景を楽しむことができます。

運行区間は、五井駅～養老溪谷駅で、乗降可能駅は五井駅、上総牛久駅、里見駅、月崎駅、養老溪谷駅です。乗車は定員制で、窓あり車両、窓なし車両ともに、乗車券の他にトロッコ指定席券を購入する必要があります。



▲煙や蒸気はダミーのため、折り返しの間に発煙装置の液体を補充しています。



▲DB4形機関車の運転席。新製のディーゼル機関車で、前方カメラのモニターなども備えています。



トロッコ列車 小湊鐵道線(月崎駅)



トロッコ列車
小湊鐵道線(月崎駅～上総久保駅間)

撮影ポイント

●上総鶴舞駅～上総久保駅間

上総鶴舞駅を出発して大きく右カーブしてくる下り列車を柳町踏切付近で撮影。



キハ200形 小湊鐵道線

●上総村上駅～海士有木駅間

西広軽田踏切付近。近辺の道路の舗装が整備され、踏切近くの西広取水場で車は行き止まりのため、車の通行が少なく撮影しやすい。警報機、遮断機は無いので列車接近に注意。



キハ40形 小湊鐵道線

●上総大久保駅～養老溪谷駅間

春には一面の菜の花が咲いて絵葉書のような、石神の菜の花畑。県道81号から枝分かれする自動車整備工場前の道は、シーズン中通行規制されることがあるほど人気の撮影地。



トロッコ列車 小湊鐵道線



五井機関区で保存されている貴重な車両

小湊鐵道の開業は1925年(大正14年)。第一期線営業開始として五井駅～里見駅間の25.7kmで運行を開始しました。翌1926年(大正15年)には里見駅～月崎駅の4.1kmが営業開始。1928年(昭和3年)に月崎駅～上総中野駅間9.3kmが営業開始し、現在の路線が完成しました。

つまりその歴史は約100年。その間にさまざまな車両が活躍してきました。

五井駅構内にある小湊鐵道の車両基地、五井機関区には、かつて活躍したSLや車齢100年を超える貴重な車両が保存されています。

1号・2号機関車は1924年(大正13年)に小湊鐵道が翌年の開業に向けて、アメリカから輸入したもので、ボールドウィーン機関車会社

が同年に製造した57776号、57777号であり、1956年(昭和31年)まで活躍しました。

B104機関車は四輪連結十輪タンク機関車(B型機関車)で、イギリスのベイヤーピーコック社が1894年(明治27年)に製造したものを、当時の日本鐵道が輸入し、宇都宮機関区、千葉機関区などで使用された後、1946年(昭和21年)に小湊鐵道が当時の国鉄から払い下げを受けたもの。

そしてキハ5800形式気動車は、1960年(昭和35年)に日本国有鐵道から譲り受け、電車から気動車へ改造し、その後1997年(平成9年)に廃車されるまで、旅客用車両として使われてきたものです。まさに小湊鐵道のロマンと躍動の歴史がここに集積しています。



B104機関車、1号・2号機関車
車齢100年を超える貴重な車両が保存されています。事前に申し込みすれば無料で見学ができます。



キハ5800形
通常は非公開ですがイベント等の際に公開されます。



五井駅の東西連絡通路から、五井機関区を望むことができます。在来主力車のキハ200形に加えて、2020年にJRからキハ40形を購入、今春から営業運転を開始。五井駅西口の「こみなど待合室」には、イトインやグッズショップがあるお洒落なカフェがあります。

Recommended Gourmet ★おすすめグルメ

1つの店で二大ブランド鰻が楽しめるうなぎ専門店

市原市にある「うなぎ 八幡屋」は、1つの店で二大ブランド鰻の『大井川共水うなぎ』と『うなぎ坂東太郎』の両方を扱っている全国唯一のお店。特に幻のうなぎとも言われる大井川共水うなぎを扱っているのは千葉県内ではここ八幡屋のほかはわずか1店舗だけ。

あまりの美味しさにファンも多く、遠方からはるばる八幡屋のうなぎを食べるために訪れるという方も珍しくないとのこと。

うなぎの他にもお寿司や和牛ステーキ、イノシシ鍋など、豊富なメニューがあるので、ご家族みんなが楽しめるお店です。



1つのお店で二大ブランド鰻が楽しめます。

ブランド鰻専門店 うなぎ 八幡屋

市原市潤井戸1307-20
TEL.0436-74-0007

- 営業時間 / 11:00～21:00 (LO 20:00)
- 定休日 / 不定休



「ちばで見る電車&飛行機」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「ちばで見る電車&飛行機」の第12回をご覧ください。



今回ご紹介した、小湊鐵道のキハ200形。車体にデザインされた小湊カラーは何色でしょうか？ 次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① アップルレッドとストーンアイボリー
- ② スカイブルーとサンイエロー
- ③ ファイアーオレンジとモーンアイボリー

取材協力・撮影協力・写真提供 / 小湊鐵道株式会社、うなぎ八幡屋

確かな“きずな”を、未来へ。



ホームページでもご覧いただけます。
京葉銀行 情報誌

LINEからも「ちばで見る電車&飛行機」を配信しています。

LINE 公式アカウント



正解は→③ ファイアーオレンジとモーンアイボリー

2022.12 (次回発行 / 2023年1月20日)